

# news.

地方へのアクセスポイント展開、セキュリティ対策などをセールスポイントに大手企業が運営するプロバイダーが2つスタートした。その一方で、地域限定の格安サービスを提供するところも増えている。WWWブラウザは日本語版が発売され、国内でインターネットを使う環境が整いつつある。

## NTT-PC コミュニケーションズ 「InfoSphere」スタート

NTTのグループ企業の1つNTT-PCコミュニケーションズ(株)は、主にビジネスで利用するパソコン通信サービスなどを提供している。そのNTT-PCが、インターネットの商用ネットワークサービスプロバイダーを開始した。名称は「InfoSphere(インフォスフィア)」

専用線IP接続では、64Kbpsから1.5Mbpsのデジタル回線まで合計8種類を用意。料金は加入時に60,000円。以後は

月額固定料金で64Kbpsで350,000円となっている。

LAN-ISDN接続は、小規模なLANを設置している企業向けで、LANに接続された端末から必要に応じてISDN回線を利用してインターネットへアクセスするというもの。料金は入会金60,000円、毎月150,000円の基本料金のほか、利用時間が14時間を超えた場合のみ1分ごとに12円の追加料金が必要だ。

このほかダイヤルアップIP接続も用意されている。料金は入会金30,000円、月額基本料金が10,000円、追加料金はLAN-ISDN接続と同じだ。

以上の回線接続サービスにあわせて、同社ではルータや各種ソフトの設定、セキュリティ対策といった周辺サービスも用意している。

アクセスポイントは、東京、大阪、名古屋など大都市だが、近い将来に全国の県庁所在地級都市へ拡大を予定している

問い合わせ先：(株)NTT-PCコミュニケーションズTEL03-3432-9687

## C&C-VAN インターネットサービスmesh NECがいよいよサービスを開始

「C&Cインターネットサービスmesh」は、NECが持つ大規模VAN「C&C-VANネットワーク」を利用して、インターネットのフルメニューを提供しようというものだ。

サービス回線は、ダイヤルアップIP接続、3.4KHzのアナログ専用線のIP接続から1.5Mbpsのデジタル専用線まで全10種類。

料金は、3.4KHz専用線で毎月150,000

円。64Kbpsのデジタル専用線では、月額385,000円(TA/ルータ料別)となっている。専用線接続の加入金は、サービス種別を問わず一律50,000円ということだ。ダイヤルアップIP接続の料金は、30,000円の初期費用と、基本料金5,400円に1分当たり30円がかかる。料金体系は富士通のInfoWebとほぼ同じである。

アクセスポイントは当初11の主要都市に設置しているが、平成9年3月末までに70都市へと大幅に拡大する予定。

このほかWWWサーバーの構築代行サービスもあり、サーバーのディスクスペース貸し出しから情報提供のすべてを請け負う。追ってセキュリティ診断などサービスを強化する予定。

問い合わせ先：NEC VAN販売推進本部  
TEL 03-3798-6086

電子メール：info@mesh.ad.jp

## リムネットがサービス拡充 128Kbps 専用線接続スタート

(株)ラビドシステムズが提供する「リムネット」が、サービス品目の追加を行った。今回加わったサービスは、128Kbpsのデジタル専用線接続で、企業が対象。料金は他のプロバイダーの64Kbpsと同程度の400,000円という月額基本料金に設定している。大手プロバイダーの同種のサービスと比較して、ほぼ半額である。このサービスは、当面、インターネットを積極的に利用するユーザーが集中している首都圏での提供となる。

リムネットでは、入会時に用意されたディスクスペースを活用してユーザーがWWWホームページを登録でき、現在200ほど登録されている。今後はこのサービスを一歩

進めて、商用のWWWサーバーの提供を開始する。これは同社のホームページとリンクさせて、企業の広報活動やオンラインショッピングを有料でサポートしようというものだ。

また、インターネットをさらに広いユーザーに知ってもらうためのセミナーや体験ルームも開始した。

さらに同社のネットワークを拡充するため、アクセスポイント運営のフランチャイズ化にも乗り出している。

問い合わせ先：(株)ラビドシステムズ  
インターネットマーケティング事業部  
TEL03-5489-5655/FAX03-5489-5640

## IJJ がサーバー構築サービスで 新会社を設立

大手プロバイダーのIJJが、住友商事、伊藤忠商事、京成電鉄などと共同でIJJ MC (株式会社アイアイジェイメディアコミュニケーションズ) を設立した。

この会社では、WWWサーバーを利用して情報を提供したり公開したりしたい企業を対象に、サーバーの構築やコンサルティングを行う。個別に契約を結ぶことで、送り出したい情報の加工や実際にWWWサーバーに登録するところまで、作業のすべてを代行してくれる。また、登録されたWWWサーバーは、同社のIJJ NetNewsによってインターネット上で公開される。

一方、ホームページサービスは、毎月10,000円で10Mバイトまで自由に情報を提供できるというもので、必要に応じて1Mバイトにつき1,000円の追加料金が必要。このサービスでも、別途オプションで用意されている情報作成支援が利用できる。経済的に企業の広報や商品情報を発信できる。

問い合わせ先：(株)アイアイジェイメディアコミュニケーションズ

TEL03-5276-6229/FAX03-5275-6404  
電子メール：info@ijj-mc.co.jp

## InfoWeb でも WWW サーバー 代行サービスをスタート

富士通が提供する「InfoWeb」では、情報発信を希望する企業ユーザーの声を受けて、サーバーのオペレーションサービスを開始した。サービス名は「InfoWeb-CABINET (インフォウェブ・キャビネット)」。InfoWeb内の共用WWWサーバーを利用できる。

料金は、登録初期費用が100,000円で、基本料金は月額50,000円となっている。なお、ディスク容量は基本契約で50Mバイトまでで、以後10Mバイトごとに10,000円のディスク利用料金がかかる。

また、顧客の注文に応じて情報ページの作成を代行する「InforWeb-HTML」も開始している。

問い合わせ先：富士通 (株) アウトソーシング営業支援部

TEL03-3437-5256/FAX03-5404-7523  
電子メール：infostaff@web.ad.jp

## 激安のプロバイダー登場 川崎・横浜地域のスターツ

スターツがサービスを開始したインターネット接続サービスの特徴は、川崎・横浜地方に限定したサービスであること、そして利用料金がきわめて安いことである。提供している64Kbpsの月額料金は150,000円と、他のプロバイダーの半額以下だ。また、通常は有料ということが多く、導入後1か月の運用管理はサービスとしている。

低料金の秘密は、大手のプロバイダーと大容量回線で結び、それを契約企業へ小分けするという方法で実現した。1回線あたりに20社程度のユーザーを割り当てるとのことだ。回線サービスのほかにDSUやルータのレンタルと保守管理なども、毎月の料金に含まれる。

2月末から3月中旬にはダイヤルアップ接続サービスの開始も予定している。課金システムは、使用後に請求するという一般的な方式ではなく、プリペイド式を検討している。

問い合わせ先：(株)スターツ  
TEL044-422-3636

## ホームページ作成 ツアー in 大分 参加者募集

インターネットへの接続サービスも提供している大分県のパソコン通信「ニューコアラ」では、4月14日(金)から15日(土)にかけて、ホームページの作り方を勉強する「ホームページ作成ツアー in 大分」を開催、参加者を募集している。講習メニューは、①インターネット・ネットサーフィン ②ホームページ作成の説明 ③サンプル使用でのホームページ作成練習 ④マイ・ホームページの作成。

宿泊費と講習会は32,000円で、ニューコアラの1か月間お試し利用料が含まれる。

問い合わせ先：  
(財)ハイパーネットワーク社会研究所  
TEL0975-37-8180/FAX0975-37-8820

## Netscape Navigator 1.1 公開 日本語対応WWWブラウザ登場

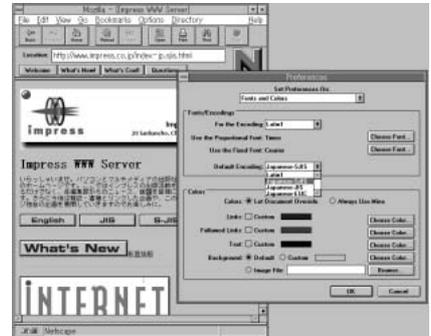
パソコン用のWWWブラウザは、国内でも米ネットスケープコミュニケーションズの「Netscape Navigator」、スパイグラス社の「Enhanced NCSA Mosaic」など英語版が利用されてきたが、ここにきてようやく日本語が表示できる製品が出回ってきた。

「Netscape Navigator」は、3月6日に発表したバージョン1.1で、日本語に対応した。Windows版、Macintosh版ともにフォントを選択するだけで日本語が表示できる。また、HTML3.0にも対応している。ベータ版の配布先はftp.netscape.com。最終版の公開は4月になる予定。これに先がけて、国内メーカー数社も日本語WWWブ

ブラウザを発表している。NECが発売した「MosaicView」は、スパイグラス社製で、Windows上で動作する。価格は5,000円。データコントロールリミテッドの「SuperMosaic」も同機能で5,000円。

富士通の製品はイリノイ大学の「NCSA Mosaic」を日本語化した「Infomosaic」Windows版、Macintosh版ともに3月から店頭販売を開始する。価格は7,800円。

ネットマネージ社の「WebSurfer」はネットスケープコミュニケーションズ社の製品を日本語化したもの。Windows対応で、Chameleon4.01日本語版の上で動作する。これはFTPサイトで無償公開されている。



公開サイトはIJJ (ftp.ijj.ad.jp)、InfoWeb (ftp.web.ad.jp)、フォーバルクリエイティブ (ftp.forval-c.co.jp)、ネットワズシステムズ (ftp.netone.co.jp)、インプレス (ftp.impress.co.jp)。

「Netscape Navigator」の日本語版は、伊藤忠テクノサイエンス社などから発売されることも決まっている。

### Macからインターネットを利用するPPPドライバソフト

(株)ディアイティでは、Mac用のPPPドライバソフト「Internet Connect PPP」を発売した。MacTCPにPPPプロトコルを追加して、電話回線やシリアル接続のサーバーとの通信ができる。

大手の商用ネットワーク・サービスプロバイダーへの接続を考慮して、IJJやリムネット、InfoWebなどへの接続用設定ファイルがあらかじめ用意されているほか、各種モデムの設定ファイルも添付している。価格は16,800円

問い合わせ先：(株)ディアイティ  
TEL03-5634-7661

### Windows用のTCP/IPソフト PathWayシリーズ値下げ

TCP/IPベースの各種アプリケーションソフトを発売している(株)データコントロールリミテッドでは、同社の主力製品であるPathWayシリーズの価格を改訂した。これは同シリーズの出荷ライセンスが順調に伸びているためということだ。今回の改訂は、5ユーザーライセンス以上の製品が

対象。改訂された製品の価格は次の通りである。Runtime1.2J DOS/Windows 63,000円、Access 2.2J DOS/Windows 168,000円、Access/Client NFS Pack DOS/Windows 238,000円、Access 2.1J Macintosh 168,000円、Client NFS 2.0J Macintosh 133,000円、Access Client NFS Pack Macintosh 273,000円となっている。

問い合わせ先：(株)データコントロールリミテッドオープンシステム事業部  
TEL03-3359-7761/FAX03-3359-7762

### PC-NFSの日本語版 東芝情報システムから

東芝情報システム(株)では、Windowsに対応したPC-NFSソフト、PC-NFSpro1.0を発売した。米サン・ソフト社からのライセンスを受けて、日本語化を図ったソフトウェアである。

インターネットへのアクセス機能を大幅に強化しているのが、本ソフトの特徴。NetScape Navigator(英語版)や、SMTP、POPに対応したインターネットメールといった、インターネットアクセスツールが標準で添付されている。

また、マニュアルはCD-ROMで提供。見やすいビューワーで検索・参照できるなど、使いやすさも考慮され、ユーザーの負担を大幅に軽減した。価格は88,000円(1年間の基本サポート契約を含む)。

問い合わせ先：東芝情報システム(株)  
オープンシステム本部TEL044-246-8420

### LAN WorkGroup 4.12J ノベルが出荷開始

ノベル(株)は、NetWareサーバーと統合されたDOS/Windowsクライアント用のTCP/IPソリューション「LAN WorkGroup 4.12J」を発売した。NetWareサーバー上からの一括管理、自動アドレス割り当て、Windows Sockets 1.1への対応など、機能が満載されている。本製品は、「LAN WorkPlace」のTCP/IPアプリケーションのすべてを搭載している。価格は5ユーザー用で220,000円から。ラインアップは、250ユーザー用まで計6タイプが用意されている。

問い合わせ先：ノベル(株)営業部  
TEL03-5481-1161/FAX03-5481-1855

## アップルトークからIP接続 「Apple IP Gateway」発売

アップルコンピュータ(株)は、Macintoshに標準搭載されているネットワーク機能AppleTalk(アップルトーク)を使っているユーザー向けに、インターネットへIP接続するためのソフト「Apple IP Gateway(アップル・アイビー・ゲートウェイ)英語版」を発売した。ユーザーのAppleTalkがIPをサポートしていない場合でも、TCP/IPサービスが利用できるようになる。SNMP(Simple Network Management Protocol)を内蔵し、価格は35,000円。

公衆回線を使って遠隔地のMacintoshを操作するソフト「Apple Remote Access」のユーザーも、このソフトを併用すれば簡単にインターネットサービスを利用できるようになる。

問い合わせ先：アップルカスタマーアシスタンスセンターTEL0120-61-5800

## WWWのオーサリング製品 「WebFORCE」新発売

日本シリコングラフィックス(株)では、同社製のグラフィック・ワークステーションにWWW用オーサングツツールやサーバソフトを添付した「WebFORCE(ウェブフォース)」シリーズを新発売した。オーサリングソフトウェアは、メニュー形式でホームページを作ることができるWebMagic Authorという新開発の製品である。

米シリコングラフィックスは米ネットスケープコミュニケーションズ社とOEM契約を結び、WebFORCEには、ネットスケープコミュニケーションズ社のWWWブラウザであるネットスケープナビゲーターや、サーバ用のネットサイトコミュニケーション



サーバをバンドルしている。システムの価格は次の通り。オーサリング&サービング用のWebFORCE Indyが1,929,000円。オーサリング専用WebFORCE Indyの9,809,000円。サービング専用2,689,000円。なお、ソフトウェアの単体発売も予定している。

問い合わせ先：日本シリコングラフィックス(株)TEL03-5488-1811(代)

## エアーが98万円の インターネット・メールサーバー

(株)エアーでは、技術的知識がなくても簡単に利用できる低価格のメールサーバーを発売した。「インターネットメールサーバ」と呼ばれるこの製品、486DX2レベルのパソコンにPC-UNIXのBSD/386、AIRMAILサーバーをインストールし、さらに必要な各種の設定をして、納品される。したがって、インターネットメールサーバを購入すれば、手持ちのWindowsパソコンなどからインターネットの各種サービスを利用することができる。

10名で利用する場合、システムの価格は980,000円。オプションとして、モデム、ハブ10BASE-T用マルチポートトランシーバなども用意している。先に低料金を武器にサービスを開始した商用サービスプロバイダー「東京インターネット」の早期契約キャンペーンと併せたパッケージプランも用意している。

問い合わせ先：(株)エアー  
TEL06-368-6080/FAX0120-12-9221  
電子メール：sima@airco.co.jp

## 日本のベンチャー情報を発信 するサーバーとクライアント

ベンチャー情報をインターネットへWWWサーバー使って発信するサービス(名称Venture-Web)が開始された。提供しているのは、ランセプト(株)同社からはWWWサーバーに参加するための必要なハードとソフトが「Venture-Web導入セット」として発売されている。価格はデスクトップパソコンの場合で498,000円、ノートパソコンで構成した場合は580,000円。いずれもパソコン本体のほか、モデムやインターネット用の通信ソフト、Ventuer-Webへの入会金と初年度会費1年分が含まれている。

なお、Venture-Webはランセプト(株)(株)NABA、AT&T Jens、コンパック(株)、ジェイコム(株)が協力して構築されている。

問い合わせ先：ランセプト(株)  
TEL03-3779-7751/FAX03-3779-7760、  
Venture-Webに関しては(株)NABA  
TEL03-5600-8360/FAX03-5600-8443

## ディアイティが インターネット接続支援サービス

(株)ディアイティが開始したインターネット接続支援サービスは、専門家以外の人にとって難しいハードやソフトの設定などをそっくり請け負うというもの。サンマイクロシステムズ社から、同社の製品に関する各種の技術情報の提供を受けることで、インターネットに必要なサポートを全面的に行う。

料金は、専用線によるIP接続でハードウェアとインストールを含めたパッケージで3,004,000円から。また、ソフトウェアのインストールサービスだけでも受け付けていて、こちらは850,000円から。他にダイヤルアップIP接続スタートアップ支援が150,000円から受けられる。なお、導入後の運用支援サービスもメニューの1つに用意されている。

問い合わせ先：(株)ディアイティ ISSPプロジェクト  
TEL 03-5634-7661/FAX03-3699-7046

## ヤマハが小型・低価格のリモートルータを発売

ヤマハ(株)は、企業内通信網を相互にISDN回線などで接続するリモートルータ「RT100i」を発売した。通信回線はISDNのほか、デジタル専用線にも対応。最大でISDNの情報回線2本分を束ねて128Kbpsの高速データ通信を実現する。

通信プロトコルにはTCP/IPを採用し、LAN接続のみならずインターネットとの接続もサポート。PPPも標準でサポートしている。他社のリモートルータとも接続できる。さらに、セキュリティ対策として、識別着信機能などのフィルタリングとともに、PAPやCHAPなどを装備し、セキュリティを確保している。初期設定時などに便



利なように、日本語表示機能も併せて内蔵している。

価格は260,000円と低価格。商用サービスプロバイダーのIIJが採用を決めている。

問い合わせ先：ヤマハ(株)電子デバイス事業部 システム機器推進部 営業課  
TEL0539-62-3125

## 2万円台の国産V.34モデムエクサが販売開始

通信速度は28800bpsを実現しているにもかかわらず、価格はなんと28,800円という低価格のモデムが(株)エクサから発売された。名前は「EXA FastPOWER288」。V.fastとV.34の両モードで利用できる。対応機種は、PC98、DOS/V、Macintosh。通信販売ということで低価格化を実現した。

現在、初回固定サービス実施中で、3月30日までに注文すると、98用アクセラレータボード(16550搭載高速RS-232Cボード)が無料添付される。

問い合わせ先：(株)エクサTEL0120-193-288(カタログ請求や注文受け付け)  
FAX03-3208-7702

## MACWORLD Expo / Tokyo'95開催

2月25日から28日までの4日間、千葉・幕張メッセで開かれたマックintoshの祭典「MACWORLD Expo / Tokyo'95」には、史上最高の151,000人が訪れた。

今年はインターネットの教育事例の紹介やオンラインビジネス、阪神大震災後のネットワークの動きを振り返るスペシャルワークショップなど、セミナーのテーマでもインターネットが多く取り上げられた。

出展社ブースでは、マック用のTCP/IPソフトを販売するディアイティがインターネットの体験セミナーを行っていたほか、CU-SeeMeで人気の「目玉型カメラ」QuickCAMを販売する誠和システムズのブースにも人が集まっていた。ユーザーグループでは、ニフティサーブなどを中心に活動す



ホームページを紹介するMuONグループ



ディアイティのインターネット体験セミナー

る「MuON(ミュオン)」がホームページを実験公開し、会場の様子を会員に伝えた。

Expoに対応して開催されたもう1つの展示会は、「Virtual Expo Online」。セミナープログラムや出展社からの情報をFirstClassのBBSで提供するもので3月末まで開局している。しかし、出展社によっては内容が登録されていなかったり、登録されていても簡単なテキストや静止画像のみで、会場の熱気を追体験することはできない。「ExpoFreetalk」という2つのコーナーに、一般来場者によるレポートが上がっている。アクセスにはFirstClassのクライアントソフトが必要。操作方法はFAX情報サービス(03-3398-2100メニュー番号16005)で入手できる。



## LAN用のPCカード アライドテレシスから

アライドテレシス(株)では、ノート型パソコンなどに対応する10BASE-Tコネクタ装備のPCカードを発売した。PCMCIA2.1/JEIDA4.2に準拠しているので、スロットを備えたノートパソコンなどで利用できる。また、データ転送にIO方式を採用しているため、メインメモリを消費せず、設定もいたって簡単だ。TCP/IPやNetWare、LAN Managerなど各種ネットワークOSへの接続のため、対応するドライバソフトが標準添付されている。価格は19,900円。

問い合わせ先：アライドテレシス(株)  
営業部TEL03-3443-5640

## 東京の地域情報をWWWで提供 ケーブルTVとの連携も予定

(株)東京テレポートセンターでは、臨海副都心「東京テレポートタウン」などの情報を中心に東京都に関するインフォメーションサービスをインターネット上で開始している。スタート直後ということもあり、今の段階で手に入る情報は、世界博や行政情報などだが、今後は都内の企業情報などを含め、拡大も予定している。また、今後のインターネット関連事業として、CATV回線を利用したインターネット用低価格通信回線の提供、インターネット関連の要員・技術者の養成などを推進する意向だ。

問い合わせ先：(株)東京テレポートセンター 開発営業部 都市管理課 TEL03-5565-5725

電子メール：info@Tokyo-Teleport.Co.jp

URL <http://WWW.Tokyo.Teleport.Co.jp/>

## ニフティが電子メールの ハブサービスをスタート

商用パソコン通信サービスのニフティ(株)が、ノベル(株)のNetWare Global MHS方式に対応した電子メールのハブサービスを開始した。このサービスを活用すれば、LAN利用者同士の電子メールをニフティ経由で送受信できる。また、ニフティサーブのメンバーともメール交換が可能だ。利用料金は、ニフティサーブの基本料金(10円/分)のほか、10円/分の追加料金が必要になる従量制課金を採用している。将来は、LAN利用者とインターネットやコンピュサーブの利用者とのメール交換もサービスを予定している。

ニフティ(株)では、2月1日より、ニフティサーブの入会案内などを日本語と英語で紹介するWWWサーバーも開設している。

問い合わせ先：ニフティ(株)メンバーサポート部 TEL03-5471-5806

URL <http://WWW.nifty.co.jp/>

## 東京理科大学インターネットで合格発表

東京理科大学が、今年の入学試験合格者の発表をインターネットでも行っている。同大学が昨年の秋に設置したWWWサーバーを利用したもので、学内の掲示板発表と同時に、合格者の受験番号を一覧で公開した。2月13日の薬学部の発表を皮切りに、3月7日の理学部二部、工学部二部の発表まで全学部が掲示されている。ちなみに、2月末現在のアクセス数は、1817件。3月末までの掲示を予定している。

同大学のWWWサーバーを担当する情報

SUT Entrance Examination Results - Japanese only

Location: <http://www.sut.ac.jp/docs/gou/sutgy.html>

合格発表

東京理科大学入学試験 合格発表

平成7年2月21日現在

【東京理科大学】 一般入学試験 (B方式)

- 理学部第一部 《平成7年2月20日発表》
  - 数学科
  - 応用数学科
- 物理学科
- 応用物理学科
- 化学科
- 応用化学科

処理センターでは、インターネットでの合格発表は来年も継続したいと話している。

URL <http://www.sut.ac.jp/>

## アスキーネットが

ArchieとNetNews サポート  
インターネットのサービスの1つ、ArchieとNetNewsが商用パソコン通信サービスのアスキーネットで利用できるようになった。これまで電子メールとFTPだけであったが、これでインターネットに蓄積されているデータの情報収集、検索、入手といった一連の作業が、特別の料金なしにアスキーネット上でできる。なお、アスキーネットでは、Archieサーバーの設置も併せて行い、当初国内3か所のデータを登録公開する。こちらはインターネットからも利用できるとのことだ。

問い合わせ先：(株)アスキーアスキーネット事務局 TEL03-3486-9661

## 日本タンデムが全社的に インターネットを活用

米タンデム社の日本法人である日本タンデム(株)ではインターネットの積極的な活用に取り出した。活用方法はおもに3つ。まず、WWWサーバーを開設して自社の情報提供をスタート。会社案内や新製品情報

を提供する。次に社員全員に配布しているパソコンをインターネットと接続し、顧客との間で電子メール交換を行う。そして3つめは、パートナー・ヘルプデスクを開設し、電子メールで販売協力店などと情報交換やコンサルティングを受け付けるというもの。

問い合わせ先：日本タンデムコンピュータズ(株) TEL03-5463-6600

URL <http://WWW.TANDEM.CO.JP/>

## インターネットで ふるさと小包の情報を提供

インターネットを利用して「ふるさと小包」に関する情報を提供するサービスが、東海郵政局で開始された。WWWで提供される情報には、東海管内の特産品の画像情報、海外ふるさと小包の紹介、国際エクスプレスメール、記念切手に関することなど。あくまでカタログ的だが、今後も随時提供情報を増やす計画がある。情報は英語と日本語の両方で作成されている。

問い合わせ先：東海郵政局 総務部企画課情報化推進係 TEL052-963-6294

URL <http://www.nttlls.co.jp/POSTAL>

ソニーミュージックエンタテインメントのWWWでスタート  
ソニーミュージック・エンタテインメント(株)が、WWWサーバーをスタートする。名前は「BIGTOP」。

開設当初は、まず、同社が扱うゲームソフトのコーナーを提供し、徐々に企画を広げていく。

ゲームのコーナーでは、動画を盛り込んだ新作紹介のほか、周辺機器の情報も登録する。また、発売予定の作品を紹介してアンケートを行うなど、マーケティングにも利用する。

続いてスタートさせる音楽情報は、一月に20作ほどの新譜を紹介。同社のCD、ビデオ合わせて約12000タイトルある旧作のデータベース化も進めている。ほかに人気バンドPSYSのコーナー、音楽データを30秒ほど聴けるサービスなど、さまざまな企画を検討中。アマチュアミュージシャン向けのオーディション告知にも利用する。

**オペルジャパンが  
インターネットで人材募集**  
昨年12月にWWWサーバーを使った情

報提供を開始しているオペルジャパン(株)では、新たに同サーバーを利用して人材募集を始めた。

同社のサーバーは、「インタラクティブオペルブラッツ」と名付けられている。日本で発売されているオペル車のオンラインカタログや、オペルがスポンサーとなっているサッカーチーム(ドイツのバイエルンミュンヘンとイタリアのACミラン)などを紹介している。人材募集に関する情報は、会社紹介などを掲示している「オール・アバウト・オペル」のコーナーにある。

URL <http://www.opel.co.jp/>

### 野村総研、三井情報開発が ビジネス利用の研究プロジェクト

野村総合研究所は、インターネットのビジネス利用を模索する公開実験をスタートしている。「NRIサイバービジネスパーク1995」と名付けられたこのプロジェクトでは、通信販売や商品テスト、マーケティングやリクルート活動を試行し、インターネットのビジネス利用の現状、企業内活用や決済システムなどを研究しようというもの。第一企画、ソフマップ、JCBカード開発センター、TBSなどの企業が参加を表明している。

### 「マルチメディア時代を拓くインターネット」 シンポジウムから

NTTアドバンステクノロジー主催のシンポジウムが、「マルチメディア時代を拓くインターネット」と題して、著名な講演者によって行われた。

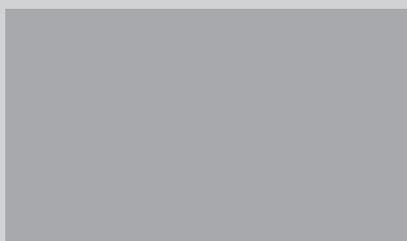
この中でアスキーの西社長は「通信のデジタル化と放送のデジタル化の延長線上をどこまでいってもオープンデータネットワーク(ODN: 出典 Realizing the Information Future, The Internet and Beyond)はない。ODNは独占に成長し、やがてデジタル通信とデジタル放送を取り込む」と語り、単に、現在のメディアをデジタル化することでは情報スーパーハイウェイは実現できず、ODNという新しいオープンな情報の形態が、逆に既存メディアを取り込んでいくだろうとの予測をし、新鮮な内容で注目を集めた。

三井情報開発(株)では、インターネットを活用した家庭用ショッピングシステムを開発するための調査研究会を4月に発足させる予定。半年間にわたり、世界のバーチャルショップの現状や技術的な課題を調査し、プロトタイプを模索する。

### アメリカンスクールがインターネット・プロジェクトに参加

東京・調布市のアメリカンスクールインジャパン(ASIJ)が、学校教育にインターネットを利用する試験的なプロジェクトに参加する。これは米科学財団などが出資するグローバルスクールハウス基金が昨年始めたプロジェクトで、インターネットとマルチメディアを利用した学校間教育を行っている。電子メール、WWW、CU-SeeMeといったアプリケーションを活用し、エネルギー資源の選択、固形廃棄物の管理、宇宙の探求、気象・自然災害などのテーマを研究する。4月には、東京学芸大学、筑波大学付属高校、神戸カナディアンアカデミーなども新たに参加する予定だ。

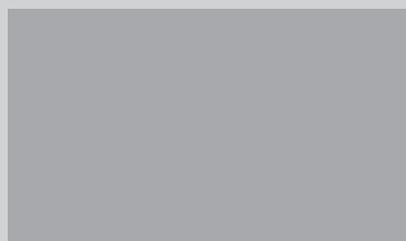
ASIJでは、以前から300台のパソコンを設置していたが、昨年から、図書室にマッキントッシュ15台を備えたインターネット・ルームを開設するなど、日常的にインターネットを



1月27日のオープニングセレモニーにはモンデル大使も参加した

利用する整備を進めており、ジャーナリズムコースではオリジナルのホームページの作成なども行われている。

今回のプロジェクト参加は、NTTがコーディネート、技術支援をしているほか、日本サンマイクロシステムズ、アップルコンピュータ、ネットワンシステムズなどが協力。通信回線は文部省の学術情報センターが運営する



SINETを利用している。

プロジェクトの期間は、2年間で予定している。

問い合わせ先: アメリカンスクールインジャパン オフィス オブスクールアドバンスメント  
TEL0422-34-5300

# IBMのOS/2 Warp V3日本語版で使う インターネット接続サービス開始

日本アイ・ビー・エム（株）は、インターネットへ簡単に接続するためのソフトウェアを搭載したOS/2 Warp V3日本語版を発売。これに伴い、海外ですでに提供されている「IBMインターネット接続サービス」が国内でスタートした。OS/2 Warpを使って簡単にダイヤルアップができ、IDは世界19か国で同じように利用できる。

## インターネットが簡単に使える OS/2 Warp V3 日本語版

OS/2 Warp V3（以下Warpと表記）は、OS/2 Ver.2.1x後継の32ビットオペレーティングシステムだ。DOSアプリケーションもWindowsアプリケーション（Win32s対応）も動作する。DOSアプリケーションは、マイクロソフトのフライトシミュレータが走るくらいよく動く。

OSそのものにはネットワーク機能は組みこまれていないが、ネットワークソフトウェアを組み込むことで、TCP/IP、NETBIOS、それにSNAまで対応できる。

TCP/IPの場合は、Berkley UNIXのSocketインターフェイスなので、UNIXのプログラムは移植しやすいし、アプリケーションはコマンドライン版もGUI版もSocketを使って作ることができる。

Warp日本語版を使うには、最小でもメモリ5Mバイト、ハードディスク50Mバイトが必要だ。快適に動作させるためにはメモリ8Mバイト、ハードディスク120Mバイト程度はほしい。

筆者はWarp英語版をメモリ4Mバイト、ハードディスク120Mバイトのラップトップ

にインストールし、Windowsアプリケーションを使いながらインターネット接続サービスを使った経験もある。ラップトップでは欠かせないAPM（自動電源管理）やPCMCIAもサポートされている。

## Windowsのサポートについて

WarpにはWindowsが含まれるものとそうでないものの2種類ある。Warpとだけいえば、Windowsが含まれないものを指す。Windowsのコードをもっているものは「Warp with Windows」という名前になっ

ている。

3月7日から発売されるのはWarpだ。つまり、その中にはWindowsのコードをもっていない。Warpをインストールする前にWindowsがインストールされていないとWindowsサポートが入らないから要注意だ。

## ボーナスパック

Warpにはボーナスパックといういろいろ便利なものが入ったパッケージが標準で付いてくる。インターネット接続ソフト、FAX関連ソフト、IBM Worksというワープロ、スプレッドシート、データベース、個人スケジュール管理などを統合したソフト、テレビ会議システムPerson to Person、さらにマルチメディアビューアーなど盛りだくさんだ。

日本語版では「OS/2 とくだねパッケージ」に付いていた「J\_pocket」というディレクトリも健在だ。この中には各種デバイスドライバ、UNIXでの便利なツール（これらはなんとソースコード付きだ）、日本語化されたTELNET（インストールするときはDBCSCNV.INIを環境変数ETCで指定されたディレクトリにコピーするのを忘れずに）、さらに、GopherとWWWのサーバー



OS/2 Warpのインターネットメニュー

まで入っている。困ったと思う前に中身を見てみるいだろう。

#### インターネット接続ツール

インターネット接続用ソフトはSLIP、PPPというリモート接続用ソフト、Webクライアント(サーバーはJ\_pocketの中)、Gopher、News Reader、マルチメディア対応メール(POPで受信、SMTPで送信)、GUI版FTPクライアントなどだ。

コマンドライン版としてnetstat、トレースルート(tracerte)、ping、nslookup、TELNET、FTPなどがある。

TCP/IPに関しては、GUI版でもコマンドライン版でも一通りの機能はそろっているので初心者でもエキスパートでも不満なく使えるだろう。

とくに、WEBクライアントは漢字コードとしてシフトJIS、EUC、ISO2022(いわゆるJIS)に対応している。

J\_pocketのなかには漢字対応のTELNETもある。PPPはIBMインターネット接続サービス以外のプロバイダにつながるときに使う。このPPPでIJと接続したが、何の問題もなかった。

### Warpから利用できる インターネット接続サービス

今回国内で始まった「IBMインターネット接続サービス」は、ダイヤルアップでインターネットに接続するサービスだ。アクセスポイントは4月30日までは東京だけ、5月1日から大阪、名古屋、福岡、千葉、川崎に、さらに年内には札幌、仙台の8か所になる予定だ。通信速度は14400bpsまで。料金は、次ページの表1に示すように非常に低価格だ。4月30日までは試験サービス期間で、すべての料金が無料になる。

#### オンライン登録

入会はWarpからオンラインでできる。番号はフリーダイヤル0120-120-208。クレジットカードはVisa、AMEX、Master、JCB、ダイナ - ズのうちのどれかが必要になる。登録の待ち時間は、クレジットカードの検査時間(約1分)だけ。

登録すると、ユーザーIDとパスワードが発行される。このユーザーIDは、電子メールの送受信にも使われる。メールのドメイン名はibm.netだ。つまり、ユーザー名@ibm.netがメールアドレスとなる。

ibm.net宛のメールはサーバーでいったん受信したのちに、POPでWarpまで運ばれる。ibm.net専用のニュースサーバもあり、現時点ではすべてのニュースグループが届いている。日本には配達されないニュースグループもここでは読める。登録すると、Workplace Shell(WarpのGUI)のアイコンのなかに自分を表すアイコンができる。これをクリックしてパスワードを入れるだけでIBMインターネット接続サービスにつながるようになる。接続は簡単だ。

#### 接続のしくみ

WarpはSLIPでインターネット接続サービスのアクセスポイントにつなぐ。SLIPのプロトコルに少し手が加えてあり、WarpのSLIPでしかこのアクセスポイントにつながらないようだ。

Windows用のTCP/IPソフトであるChameleonの英語版Ver.4.1にはアメリカのIBMネットワークサービスへサインアップできるメニューがある。つまり、Warp以外でもアメリカでは利用できるわけだ。このソフトで日本のアクセスポイントにつなごうと試してみたが、うまくいかなかった。低価格のダイヤルアップは魅力的なサービス



WarpからIBMインターネットサービスへ接続する





約20か国のアクセスポイントがあらかじめ登録されている。

なので、早く日本でも他のソフトで使えるようにしてほしい。

Warpを使って日本のアクセスポイントにつながると、それはIBM社の回線を通してアメリカに行く。そしてアメリカでインターネットとつながっている。日本で使ってもアメリカのサイトとの通信のほうがかく感じる。日本のサイトとの通信には太平洋回線を2回渡るからだ。

たとえば、GNUのソフトをFTPで取るのに普通なら日本のミラーサイトにアクセスするが、Warpでインターネット接続サービスを使っている場合は直接MIT（マサチューセッツ工科大学）にアクセスしたほうが速いということだ。

### 1つのIDで海外でも利用できる アメリカなら日本より安い？

IBMインターネット接続サービスは、現在世界19か国で提供されている。

	入会金	月額基本料	追加課金	Warp以外のアクセス
日本	4,000円	3,600円（3時間まで）	1,200円 / 時間	できない
アメリカ1	29.5USドル	12.95USドル（6時間まで）	3USドル / 時間	できる
2	29.5USドル	27.5USドル（30時間まで）	2USドル / 時間	

表1 IBMインターネット接続サービス日米比較

ラップトップパソコンにWarp日本語版を入れてPCMCIAのモデムとともにアメリカに出張などで持っていても、アメリカのIBMインターネット接続サービスのアクセスポイントにつながりだけでいい。アクセスポイントはWarp内のリストにあらかじめ登録されているので、ここから選べばいいわけだ。

受信メールは、サーバーからPOPで取ってくればいいし（受信をクリックするだけだ）。メールを発信しても、ibm.netから送るのでアドレスは変わらない。

アメリカで発行したIDを日本で使ってみたが、何の問題もなかった。アメリカでIDを発行すると、アメリカ料金となる。これがクレジットカードで決済するときカード会社のレートに従って日本円に換算される。

受けられるサービスは、IDを発行した国とは無関係に同一だ。だからユーザーIDを発行するときだけ、今後円換算で得しそ

うな国で発行するというのもうまい方法かもしれない。

### ソフトの自動更新サービス 日本語版では利用できない

Warp英語版でのインターネット接続サービスにはソフトウェアの自動更新サービスがあったのだが、現在のところ日本語版にはないようだ。これは、インターネット接続サービスにつながると自動的にWarp上のソフトウェアのバージョンとサーバー上のバージョンとを比べ、サーバーに新しいのがあれば、それを自動的に（と書いてもやっつけていいかどうかの確認はする）とってきてインストールするものだ。

Warpの日本語版と英語版との版管理が大変なのはよくわかるのだが、重要な機能なのでサーバーを2系統にするなどして早く対応してもらいたい。

\*

WarpはDOSとWindowsのどちらを立ち上げるかを切り換えることができるので、IBMインターネット接続サービスへのアクセスツールと割りきって使ってみるのもよい。OS/2ならではのマルチスレッド機能で、たとえばWWWを使いながら電子メールを読むようなこともできる。

IBMインターネット接続サービスは4月30日まで無料だから、この間がIDを作るチャンスだ。

問い合わせ先：ダイヤルIBM0120-01-1992

#### OS/2 Warpのラインナップ

OS/2 Warp V3日本語版CD-ROM版:	14,200円
OS/2 Warp V3日本語版ディスク:	34,000円
OS/2 Warp V3withWIN-OS/2CD-ROM版:	14,200円
OS/2 Warp V3withWIN-OS/2 ディスク:	34,000円



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)